

衝立岩を2つ重ねたみたいな感じであり、今まで全く気付かなかった。全体に菱形をしており、頂上は茶臼の頭から南に少しよった所で、高差300メートル、巾200メートル、傾斜は80度、途中にテラスは1ヶ所もなく、スラブ、オーバーハングの連続で登るとすれば、非常に困難な登攀となるだろう。

#### 「菱形右方ルンゼ」

菱形岩壁の下部から右にのびているルンゼで、丁度中間程から左に曲り、最後100メートル位はスラブになり茶臼の頭に抜けている。ルンゼの長さ500メートル、傾斜は60～70度、途中に大小のテラスも有り、なかなかの快適な登攀を楽しませる様である。しかし、ザイルピッチが20～30位かかりそうなので、中又白谷を長くした様なルンゼで、登攀には相当の時間がかかりそうである。

## 下又白谷奥壁初登攀

196~~4~~<sup>5</sup>年8月3日の記録

パーティ	檜	山	季	樹
	山	田	裕	紀
サポート(L)	深	沢	敏	夫
	高	木	チ	エ子

数年来クラブの目標であった下又白谷の奥壁を、昨年のルートワークと偵察、そして今回の深沢さん等のサポートのおかげで、トレースすることが出来た。この壁の登攀を、一番深く考え研究していた松坂さんの出席が得られなかった事が残念であった。

30周年の記念山行の後に、奥又白の池に集った僕等は、2日には昨年トレースした地点まで8ミリのフィックスロープをセットし終え、登攀の準備は万事ととのっていた。昨年の試登のルートは壁の基部にある3メートル程のハングした青白い壁の右端のピナクルテラスから、バンドを左に40メートルほどトラバースし、カンテを20メートル直上したテラスまでだった。そのテラスからこの壁の特徴である人面のハングは手のとどく位の位置にあった。昨年はその地点まで大分苦労したのに比して、今回の登攀は、壁の特徴をある程度掴めたので、楽に攀る事が出来た。ルートワーク終了後は、2回のアップザイレンと20メートルのトラバースで基部に立てた。ことに2回目のアップザイレンは、3メートル程壁から身体が外に出る空中懸垂で、非常に快適であった。

3日。僕等4人は、昨年よりずっと雪の多い、急な雪溪から壁の基部に立った。今日こそ完登出来るかもしれないという気持で、登攀用具を身に着ける。ハーケン・カラビナ・アブミ……にわかには身体が重くなり、自由をうばわれてゆく感じがする。用具も充分だし、パートナーも僕の古くから